



## 時代と社会の要請に応えて ～こども教育福祉学科の設置のねらい～

発行者  
学校法人聖隸学園  
聖隸クリストファー大学・大学院  
聖隸クリストファー高等学校  
〒433-8558  
浜松市北区三方原町3453  
電話 053(436)5311  
<http://www.seirei.ac.jp>

聖句

あなたたちは真理を知り、  
真理はあなたたちを自由にする。

(ヨハネ福音書八・三二)

社会福祉学部長 佐々木 敏明

### 聖書のことば

聖隸学園宗教主任 鈴木 崇巨

聖隸クリストファー大学社会福祉学部では、二〇〇八年四月に、社会福祉士の受験資格に加え、保育士と幼稚園教諭の資格を取得することができる「こども教育福祉学科(定員四十名)」を開設する予定です。

社会福祉学部として「こども教育福祉学科」を開設する目的は、家族形態や子どもを取り巻く環境の変化が、子育て不安や児童虐待などを生み出す土壤になつていて、保育園や幼稚園など、お世話をすると教育をする場を提供するだけでは、子どもが安全で健やかに発達することが困難になつてきている現状があります。

そのため、保育士や幼稚園教諭も、社会福祉を幅広く学び、親・家族に対する相談支援や安心して子育てができる地域環境づくりを担える、また、保健医療の連携に加え、卒園後を見据えた教育と福祉の連携・協働できる力量が期待されるようになつてきました。二〇〇七年四月から、保育園と幼稚園の両方の長所を生かした保育と教育

の総合的な提供と、適切な規模の子ども集団での育ちの場の確保を進めようとする「認定こども園」の設置が全国的に始まりましたが、このような動きも、そのひとつの中れといえましょう。

「こども教育福祉学科」では、「親支援方法論」「地域支援方法論」など独自の専門科目を配置して、このような時代と社会の要請に応える人材の育成を第一の目的一としています。

あわせて、資格を取るだけではなく、四年間の大学生活のなかで、総合的な企画力、判断力、リーダーシップを身につけてもらい、将来は、主任保育士、園長などの管理運営面や子育て支援ネットワークづくりなど、地域での指導的役割を担うための基礎をしっかりと学んでもらいたいという願いもあります。

聖隸クリストファー大学社会福祉学部は、「こども教育福祉学科」の開設を契機に、聖隸の精神である「生命の尊厳と隣人愛」という変わらないものを大切に

で、親の介護の悩みに直面したり、介護の相談のなかに、子どものしつけや教育の問題が複雑に絡み合つたりしていることがままあります。

社会福祉学部の教員に、子どもの教育や福祉にかかわる専門の教員が加わることによって、社会福祉の教育力・研究力がレベルアップし、総合福祉大学としての力が發揮できるのではないかと考えています。

そして、地域社会、とくに静岡県西部

の福祉教育・研究の拠点大学となることが願いなのです。

聖隸クリストファー大学社会福祉学部は、「こども教育福祉学科」の開設を契機に、聖隸の精神である「生命の尊厳と隣人愛」という変わらないものを大切にするとともに、時代と社会の変化を見据えて、変えなければならぬものを積極的に変え、挑戦していく決意を新たにしています。

「ロバ」は、体は小さいですが、長い耳をもっています。古くから荷を運ぶ動物として広く使用されてきました。原産地が山岳地帯であった関係で、粗食に耐え、足が丈夫でした。イエスは十字架にかけられることを知りながらも、エルサレムの町の中に入つて行かれました。いつもは歩いて活動されていたのに、この時はなぜか「子ロバ」に乗つて入つて行かれました。

イエスはいつも教育的な行動を取られました。ロバは柔軟で、人の役に立つ動物でした。神は柔軟で、人の役に立ちたいと思っておられる御方です。力強い馬ではなくろば、しかも子ロバに乗つてエルサレムの町の中へと入つて行かれました。このような神のご性質を知ることは、人間にとって重要なことです。人間は荒々しく生きるのではなく、柔軟に生きる方が神の創造された世界に合致しているのです。

実際に、子どものしつけの相談のなかで、子どもの福寿祉を総合的に学ぶ環境が整えられることです。

大学学長に就任して

～これからの中學に求められるもの～

聖隸クリリストファー大学に赴任して、大学院でのがん看護CNS(専門看護師)教育が、ようやく軌道に乗った頃に突然浮上した学長就任の件は、まさに青天の霹靂でした。しかし多くのの方のサポートを得て、自分に課せられた使命と思わされ、教職員の皆様の御協力・御支援をいただきながらベストを尽くそうと決心しました。

改革の嵐をくぐりぬけて、一教員として着任した本学の印象は、まるで別世界のようにも穏やかで、のびのびとしていて驚きと感動をおぼえました。しかし、一方で少子化、財政難、大学改革の波は、確実に本学にも迫っていることを折々に感じさせられ複雑な思いでした。あれから二年たち、大学全入時代を迎えるも大学改革の波の中で、大学としての責務を果たしていくためには、この状況を教職員一同が適確に把握し、それぞれが危機感をも

し、邁進する事が不可欠であります。新たに就任した学長として、これらの聖隸クリストファー大学に求められるものについて、本学の良さや強さを最大限に生かしながら、少子高齢化の進展等による社会のニーズや医療の高度・複雑・専門化による医療系大学への期待・要請等をふまえて、以下のものをとりあげました。これらはすでに計画されているものですが、これらをいかに本学らしく、ユニークに具体化し実現させるかが緊急課題であると考えます。

魅力は競争力を高め、競争力は魅力を創り出すといわれます。魅力ある大学、つまり、在学生や受験生の心をひきつける力をもつた大学であるためには、大学・教育のユニーク

研究のための外部資金の導入については、大学改革の中できっくりあげられていました。財政困難な状況にあっても、外部資金を導入して、大規模な研究を行う事は、世界的な競争力を増す上で、また、教育を活気あるよいものにする上で非常に重要な事です。自分(達)の研究成果を教育に反映させて斬新な魅力ある教育にする事(大学評価の一項目になっています)は、大学の魅力を高める事につながりますので、努力していただきたいと思います。

競争力を備えた大学という場合、受験生の確保と外部資金(研究費)の導入がいわれています。受験生の確保についての競争力には、魅力ある大学という事が不可欠です。その上で、その魅力を大学案内、オープンキャンパス等で見、聞き、体験してもらう事、又入試方法や募集方法等の工夫、高校との連携等が重要でしよう。これらは教職員が一丸となつて、すでに積極的に進められていると思います。

性や人的・物的環境等が大切であります。特に、精神面がどれだけ充実しているかが非常に重要といえるでしょう。それには、学生達がめざした大学らしい充実したカリキュラム、よい学習支援環境、誠実で意欲的な教師陣、互いに気づかいあう仲間達などが関連すると言えます。これらの根底には、建学の精神が流れている事が前提といえるでしょう。本学の建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」は、現在の教育でいかに浸透しているか、又させているか、校風として学生達にいかに受けつがれ、又魅力となっているか、等について再考し、それをいかに公的にアピールするかが急務と考えます。



學長 小島 操子

医療が高度・複雑・専門分化し、又人々の価値観やニーズも複雑・多様化する中で、医療における多職種からなるチーム・アプローチは不可欠になっています。本学は、保健医療福祉に関する看護、リハビリテーション、社会福祉の3学部から成り、多職種連携・協働の意義・重要性を身につける絶好の学び舎であります。自らの専門分野を学ぶと共に、他職種(他学部)の専門性を理解し、尊重して協働する事の重要性や方法等の教育をどのように表現するかが、社会や医療のニーズに応え

いう事です。実践能力を備えた専門職業人を育成するという点で本学は聖隸グループの病院・施設等非常に恵まれた教育環境にあります。これらの病院・施設等との信頼関係に基づく密着した連携と協力で、いかに実践能力の資格レベルを修得させるか、真摯に話し合い最良の方策を見い出すことが急務と思われます。

れる要素とそのレベルが問題になるでしょう。実践能力の要素としては、知的・判断的・技術的・人間関係的技能と態度・感性および倫理的配慮の6つがあげられています。これらのどの1つが欠けても眞の実践とはいえないでしょう。又、実践能力のレベルには、資格レベル、上達レベル、精通レベルの3つがあります。大学教育では卒業時に専門職業人として資格を有するレベル、つまり“資格レベル”をしつかり修得させておく事が重要です。実践能力の資格レベルは、“原理原則を理解して独力で、あるいは適切な指導・助言のもとに一人で行うことが出来る”という事です。そうすれば、卒業と同時に自主的に、主体的に実践を重ねる中で上達レベルそして精通レベルに達していく事が出来るでしょう。

## ⑤大学院博士後期課程の設置と充実 学問を修め、専門性を追究する上

研究科があるメリットを生かして、これらの学問・専門分野を総合する中で、それぞれの分野の深奥を極め、研究能力を高めると共に、専門職種間の連携・協働について深く追究する博士後期課程の設置が求められます。本学ならではのユニークな博士後期課程を開発し充実させて、実践の場でリーダーシップを發揮し、多職種の連携・協働を円滑かつ効果的に推進する高度専門職業人を育成する事を通して、医療や人々のニーズ・満足に、又医療・福祉系の学問や専門職の発展に貢献する事が期待されます。

以上、本学に求められるものとして5項目あげました。これらは大学として当然の事であり、すでに取り組んでいますが、人々にわかりやすい成果を出していくには知恵と努力とコミットメントが、また連携・協働が不可欠です。厳しい時代にあってこそ、大学が輝けるよう一丸となつてがんばりましょう。皆様の御支援・御協力を心から願っています。

また、チーム医療の円滑な推進のために、大学院修士課程でのスペシャリスト育成の要請が高まっています。この傾向は、本年の医療法の改正で国があとおしすることになります。実践に關して恵まれた教育環境にある本大学院は、スペシャリスト育成を推進する事が期待されていますし、本大学院の責務と考えます。

本学のユニーク性を高め、魅力を増す上で非常に重要と考えます。

聖隸クリストファー大学大学院では、二〇〇八年四月開設をめざして博士後期課程の準備を進めています。大学院は、一九九八年に看護学研究科修士課程を開設し、二〇〇二年に社会福祉学研究科修士課程、二〇〇六年にはリハビリテーション科学研究科修士課程を開設しました。そしてこのたび高等教育の最高機関である博士後期課程の開設に向けて準備を進めているところです。

本学大学院博士後期課程は、修士課程における看護学、社会福祉学、リハビリテーション科学の3分野を総合し、「保健科学研究科(博士後期課程)」とします。「保健科学研究科(博士後期課程)」では、専門職倫理を具現化した高度な専門職業人の育成をめざしますが、この課程のキーワードとなるのが「インターフェッショナルワーカー(I PW)」です。I PWとは、利用者主体の、利用者のQOLの向上を目的とした、多職種の専門職業人による高度な連携と協働に基づいて行う総合的な援助活動を意味します。

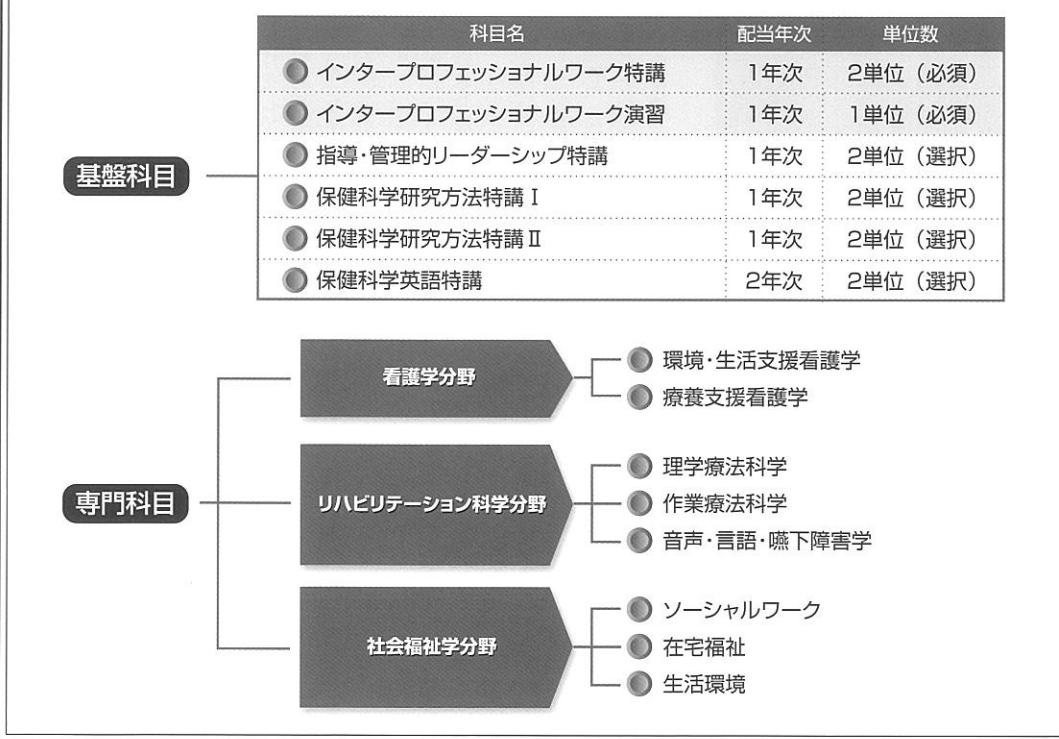
二十世紀に高度に発展した専門知識とテクノロジーは、全体としては人々に豊かさをもたらす一方で、個人が持つ得る知識と技術には限界があり、このことが多様な価値観を生み出す反面、多くのひずみ、不安、無理解、過誤、葛藤、断絶、争いなどの原因になっています。I PWでは、利用者主体の、利用者のQOLの向上を目的とした、多職種の専門職業人による高度な連携と協働に基づいて行う総合的な援助活動を推進します。I PW実現のためには、協働する相手の領域と自らが属する領域に対する敬意と正しく深い知識、また協働する相手と自らの領域を調和させながら総合的な援助活動を実現するマネジメント能力が必要であり、これらは共に学び、相互作用し合う学習のうえに成り立つものと考えられます。

聖隸クリストファー大学大学院では、二〇〇八年四月開設をめざして博士後期課程の準備を進めています。大学院は、一九九八年に看護学研究科修士課程を開設し、二〇〇二年に社会福祉学研究科修士課程、二〇〇六年にはリハビリテーション科学研究科修士課程を開設しました。そしてこのたび高等教育の最高機関である博士後期課程の開設に向けて準備を進めているところです。

本学大学院博士後期課程は、修士課程における看護学、社会福祉学、リハビリテーション科学の3分野を総合し、「保健科学研究科(博士後期課程)」とします。「保健科学研究科(博士後期課程)」では、専門職倫理を具現化した高度な専門職業人の育成をめざしますが、この課程のキーワードとなるのが「インターフェッショナルワーカー(I PW)」です。I PWとは、利用者主体の、利用者のQOLの向上を目的とした、多職種の専門職業人による高度な連携と協働に基づいて行う総合的な援助活動を意味します。

二十世紀に高度に発展した専門知識とテクノロジーは、全体としては人々に豊かさをもたらす一方で、個人が持つ得る知識と技術には限界があり、このことが多様な価値観を生み出す反面、多くのひずみ、不安、無理解、過誤、葛藤、断絶、争いなどの原因になっています。I PWでは、利用者主体の、利用者のQOLの向上を目的とした、多職種の専門職業人による高度な連携と協働に基づいて行う総合的な援助活動を推進します。I PW実現のためには、協働する相手の領域と自らが属する領域に対する敬意と正しく深い知識、また協働する相手と自らの領域を調和させながら総合的な援助活動を実現するマネジメント能力が必要であり、これらは共に学び、相互作用し合う学習のうえに成り立つものと考えられます。

### 大学院保健科学研究科(博士後期課程)の教育課程概要(案)



## 近況報告

校長 茂田 勇

英数科（二回生）五十三名、普通科二百五名、計二百五十八名の新一年生を迎えて二〇〇七年度がスタートしています。今年度は「二十一世紀躍進プラン」による学校運営の四年目になります。教育内容の一層の充実に取り組むとともに、結果も問われる年になると考えています。

### ●嬉しい優勝

男子バレー部が県大会で優勝し、今夏、佐賀県で開催されるインターハイ出場を決めてくれました。準決勝では、過去一回続けて苦汁を飲まされた下田南をセッタカウント二対一で退け、決勝では宿敵清商を同じく二対一で下しての見事な優勝でした。接戦をものにしたところに、このチームの成長を感じています。男子バレー部の活躍に刺激され、他の部活も次々と活躍してくれるものと期待しています。

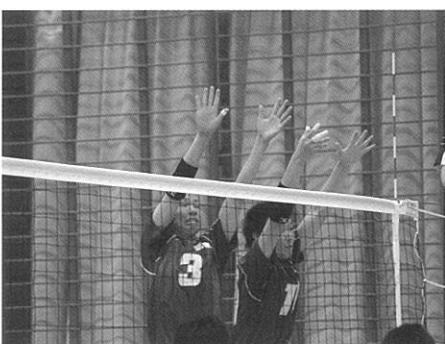
### ●恵まれた教育環境を生かす

本校のすぐ近くには聖隸クリストファー大学、聖隸三方原病院、様々な福祉施設が点在しており、他校には例をみない恵まれた教育環境があります。本校の特色である「労作」と

いう授業や英数科で始めた「人間探求」もこうした環境にあるからこそ豊かな実りが期待できるのであり、この環境を生かす教育を開拓することができ、「二十一世紀に期待される学校づくりにつながると考えています。

### ●高大連携の充実

恵まれた環境の一つである、聖隸クリストファー大学との高大連携が充実度を増しています。「看護・福祉・リハビリ特別プログラム」により、登録した生徒を対象にしたさまざまな講座や、生きた体験学習が行われています。ここで学び、高い目的意識を身につけた生徒が聖隸クリストファー大学に進み、やがて地域医療や福祉に貢献する人材に育つてくれるものと期待しています。



なお、前年度は女子サッカー部と女子ソフト部を立ち上げましたが、今年度は馬術部を新設しました。順調に育ってくれることを期待しています。

●総合力が問われている

「聖高祭」でPTAの皆さん生きと活動してくださいました。例

いう授業や英数科で始めた「人間探求」もこうした環境にあるからこそ豊かな実りが期待できるのであり、この環境を生かす教育を開拓することができ、「二十一世紀に期待される学校づくりにつながると考えています。

恵まれた環境の一つである、聖隸クリストファー大学との高大連携が充実度を増しています。「看護・福祉・リハビリ特別プログラム」により、登録した生徒を対象にしたさまざまな講座や、生きた体験学習が行われています。ここで学び、高い目的意識を身につけた生徒が聖隸クリストファー大学に進み、やがて地域医療や福祉に貢献する人材に育つてくれるものと期待しています。

恵まれた教育環境も総合力の一つです。それらを生かした教育を展開しつつ、PTA、同窓会、後援会の皆様の力を結集することによって、魅力ある学校づくりを推進したいと考えています。

この四月に赴任してまいりました新しい教頭です。どうぞよろしくお願ひいたします。躍進を続ける本校に達した同窓会も「同窓会報」を全卒業生に送付するなど様々な改革が進んでいます。後援会もしかりです。少子化による生徒数の激減という厳しい状況の中、問われているのは学校の総合力です。

恵まれた教育環境も総合力の一つです。それらを生かした教育を展開しつつ、PTA、同窓会、後援会の皆様の力を結集することによって、魅力ある学校づくりを推進したいと考えています。

この四月に赴任してまいりました新しい教頭です。どうぞよろしくお願ひいたします。躍進を続ける本校に着任し身が引き締まる思いをいたすと同時に、今後の展開に大いなる期待をしているところであります、さて一ヶ月余の短い生活の中ですが本校生徒育成の特徴を概観してみました。第一に、「躍進プラン」による中・長期の改革計画により、「目指す学校像」「育てる生徒像」が明示され、意欲的に魅力ある学校づくりが進められている。第二に、「日々の授業と補講だけではなく、先生方の工房リレーション相談事業」も二年目を迎えて、魅力ある学校づくりを推進した三に、より質の高いレベルを求める部活動（本日六月二日午後、男子バレー部の全国総体出場の朗報が飛び込んできた）、生徒会活動やボランティア活動の中で育まれる個性と豊かな心。第四に姉妹校などの留学生受け入れや長期短期の留学制度を通じて磨かれるグローバルマインド。これらが日々有機的に結合し、恵まれた教育環境の中で見事なハーモニーを醸し出し、本校の生き生きとした教育活動が展開されています。

しかしながら、喜んでばかりいる状況ではありません。現在、高水準の実績を示しているものの生徒諸君はまだかなりの余力と可能性を残していると考えられます。今後は、教職員一丸となって秘めたる可能性をもつた生徒一人ひとりの目標を実現するよう取り組んでいきますので、皆様方の御支援、御協力ををお願いいたします。



教頭 寺田 博義

## 高等学校教頭に就任して

## ◆2006年度の進路状況と2007年度の進路展望

副校長 鈴木 智之

### 《医・薬・歯・獣医・リハなど第一志望に合格》

第一志望の大学に進学する、これが進路指導の基本だ。上記の学部は理系の最難関、今年は国公私大合わせてのべ14名が合格した。これは“一人ひとりを大切に”の聖隸の精神が生きた結果だ。HR担任、進路指導部を中心としたきめ細かな指導は驚くほどだった。進学した生徒は、これに応えてその道に、きっと精進してくれるだろう。

### 《国立19名、早慶上智、MARCHなど66名が合格》

卒業生の40%が4大に合格した。私大合格者は、のべ148→181→199と年を追って伸びている。昨年は“全国ここ10年伸びた学校300校”で評価されたが、卒業生はMARCH〈明治・青山・立教・中央・法政〉、関関同立〈関西・関西学院・同志社・立命〉など難関私大へ昨年より1名多い66名が合格し、現3年生にはさらなる飛躍が期待される。国公立大も、9→22→19と右肩上りだ。センター受験者(5教科7科目)が、30名、その母集団から見れば63%と合格率は静岡県内では群を抜いている。これも塾等には通わせない受験指導が効果を上げた結果だろう。英数科が2年目、本年度はその前哨戦とも言える年、S→30作戦と称して国公立合格者を30名の大台に乗せるため

に教職員は一丸となって頑張っている。

### 《ここ2~3年の伸びはどこにあるのだろうか》

第一には規律正しい生活習慣の確立が上げられる。欠席・早退・遅刻数が激減した。登下校時のあいさつもよい。これが授業をしっかり聞く態度になり、基礎基本の充実に結びつく…少しづつ生徒たちは、自信をもち始めてきた。それは、各学年の4大希望に現れている。この4月の進路調査では、3学年52.3%、2学年56.7%、1学年56.0%と完全に進学校へ脱皮を始めている。後は、3学年で専門学校等が25%・就職希望が15%となっている。

第二には生徒と先生の強い絆(きずな)だ。受け身の時代とも言われる今、先生を信じてとことんついて行くことが合格への第一歩だ。芽生え始めた生徒達の自信は、先生の強いサポートと結びついて第一志望実現の可能性を高めてくれる。まさに、“一人ひとりを大切に”する心の芽生えが、花つけ実を結ぼうとしている。

もう一息、さらなる明日のために皆様のエールを、ぜひお願いしたい。

### ■■■ ●主な大学合格実績(2006年度入試) ■■■

#### ◎国公立大学

大学	人数( )内は過年度生
帯広畜産大学	1
北見工業大学	1
釧路公立大学	2
茨城大学	1
千葉大学	2
信州大学	1
静岡大学	2
静岡県立大学	2
浜松医科大学	1
愛知県立芸術大学	1
大阪府立大学	1
岡山県立大学	2
福岡教育大学	1
長崎大学	0(1)
合計	18(1)

大学	人数( )内は過年度生
北里大学	3
日本大学	2
神奈川大学	3
駒沢大学	1
大東文化大学	2
帝京大学	1
創価大学	3
桜美林大学	1
関東学院大学	2
國土館大学	4
神奈川工科大学	0(1)
昭和女子大学	1
桐蔭横浜大学	1
城西国際大学	1
帝京平成大学	3
国立音楽大学	1
日本体育大学	1
明海大学	1
北海道医療大学	1
酪農学園大学	1(1)
奥羽大学	0(1)
北陸大学	1
金沢工業大学	5
聖隸クリストファー大学	24
常葉学園大学	4
静岡文化芸術大学	2
静岡産業大学	7
静岡理工科大学	2
浜松大学	4
愛知学院大学	2

大学	人数( )内は過年度生
愛知工業大学	1
愛知産業大学	2
愛知東邦大学	1
大同工業大学	1
中部大学	2
東海学園大学	4(1)
同朋大学	1
名古屋学院大学	1
名古屋商科大学	3
名古屋芸術大学	1
南山大学	3(2)
日本福祉大学	1
藤田保健衛生大学	1
名城大学	10
岐阜聖徳学園大学	1
皇學館大學	3
立命館大学	5
同志社大学	2(2)
関西大学	3(1)
関西外国语大学	1
関西学院大学	4
関西鍼灸大学	2
関西国際大学	1
大阪工業大学	1
大阪体育大学	1
南九州大学	1
合計	183(16)

#### ◎私立大学

大学	人数( )内は過年度生
慶應義塾大学	1(1)
早稲田大学	0(1)
上智大学	1
国際基督教大学	1
東京理科大学	6
明治大学	6
青山学院大学	5
立教大学	4(1)
中央大学(法学部他)	8(2)
法政大学	8
杏林大学(医学部他)	1(1)
明治学院大学	1(1)

大学	人数( )内は過年度生
聖隸クリストファー大学	24
常葉学園大学	4
静岡文化芸術大学	2
静岡産業大学	7
静岡理工科大学	2
浜松大学	4
愛知学院大学	2

聖隸歷史資料館特別展 聖隸學園特別展開催



▲歴史資料館見学風景



▲開会セレモニーで挨拶をする長谷川了理事長

一九〇二年から始まつた聖隸歴史資料館特別展は今回で八回目を数え、その最終回として五月より聖隸学園の特別展を開催しています。この特別展では、一九四九年の遠州基督学園の開設が聖隸の教育事業の第一歩であること、聖隸の精神は聖隸学園の建学の精神および聖隸クリリストファーハー大学と聖隸クリリストファーハー高等学校的教育目的・目標の中に確かに受け継がれること、六〇年にわたる歴史の中で幾度となく訪れた様々な危機と転機の中で支え、助けてく

ださった方々がいたことを中心に映像とパネルにより紹介されています。六月九日(土)には記念礼拝が執り行われました。記念礼拝後のティーパーティでは、参加された遠州基督教園及び聖隸准看護学園の卒業生をはじめ、一人ひとりに当時の思い出を熱く語っていました。卒業生の心に聖隸の精神が脈々と息づいていることを感じたひとときとなりました。



▲記念礼拝の司式を務められた  
聖隸クリストファー大学鈴木崇巨宗教主任



#### ▲ティーパーティーにて

## 学校法人聖隸学園・特別展・

〔研本理之〕

「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」

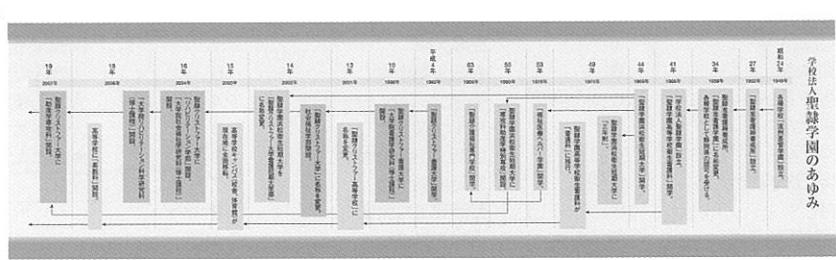


◎所在地  
〒433-8558  
静岡県浜松市北区三方原町3453  
東洋ビル112号  
十日町2号館2階

◎電話  
053-439-3407

○開館時間  
10:00～17:00(16:30までに入館)

○休館日  
土日祝祭日・聖隸学園の休業期間



●資料館内では、一九四九年に開設した遠州基督教園から現在の約六十年の変遷がパネルで紹介されておりますので、是非一度足をお運びいただければ幸いです。

## ◆ 2006年度決算および2007年度予算の概要 ◆

【表1】学園の収支状況

	2006年度決算			2007年度予算		
	大 学	高等學校	学園合計	大 学	高等學校	学園合計
授業料等	1,899	348	2,246	2,046	353	2,400
入試受験料等	45	16	62	48	15	63
寄付金	16	9	26	5	7	12
補助金	372	270	641	350	262	611
その他	42	5	49	6	2	8
収入合計	2,374	648	3,024	2,455	639	3,094
人件費	1,402	411	1,876	1,436	423	1,922
教育研究経費	504	236	740	535	240	775
(内減価償却費)	(224)	(109)	(332)	(177)	(108)	(285)
管理経費	107	43	193	111	41	213
(内減価償却費)	(1)	(0)	(8)	(7)	(4)	(18)
その他	13	40	53	14	41	60
支出合計	2,026	730	2,862	2,096	745	2,970
帰属収支差額	+348	△82	+162	+359	△106	+124

※ 上記概要是法人部門の表示を省略しております。

### <2006年度決算について>

◆ 法人全体の収支は 1億6200万円の黒字にて着地しました。

2006年度はほぼ予算通りの収入に対し、人件費を始めとした各経費が全体的に予算を下回りました。そのため、帰属収支差額は1億6200万円のプラスにて着地し、収支は大幅に改善されました。

【表1】【表3】

◆ 中長期財務計画を大きく上回り、財務の改善が進んでいます。

学部増設・校舎新築等の大型設備投資については財務内容が一時的にアンバランスとなるため、本学では中長期の財務計画を策定し運営を行っております。2006年度の帰属収支差額は計画を8000万円程度上回る数字でクリアしており、財務内容の大幅な改善が進んでいます。

◆ 借入金に対する十分な返済能力を有しております。

本学の資産負債の構成は【表2】の通りであり、設備投資における借入金は2006年度末現在で27億1800万円と、金利の上昇を含め大きな負担となっております。しかしながら、現状のキャッシュフローにおいては最短で5.56年での全額返済が可能であり、十分な返済能力を有しているといえます。(一般的には10年以内であれば財務内容は健全と言われています。)

◆ 高等学校の改革を更に進める中で、収支の改善が今後の課題です。

校舎の全面移転という教育環境の整備に伴う借入金返済・金利負担や減価償却費が収支バランスを欠く要因となっています。また、特待生奨学費・スクールバス運行経費についても大きな負担となっています。英数科を中心とした学校全体のレベルは急速に向上来おり、生徒数の増加と現在の活力を維持したこれらの改善が今後の課題です。

### <2007年度予算について>

◆ 今後の事業計画に向けて財務の健全化を進めます。

リハビリテーション学部が完成年度を迎えるにあたり、収支は引き続きプラスとなる見込みです。手元資金をできるだけ確保し、借入金の早期返済を図っていくことも検討しています。【表1】

◆ 教育研究に関わる予算を重点的に計上しました。

【表4】の通り事業別・目的別に予算管理を行い、2007年度は教育研究に関わる経費を厚く計上しました。特に教室設備・実習関連を中心に設備環境の更なる充実を図っていく計画です。また、教員・学生の積極的な研究についても支援していく方針です。

◆ 大学のグランドデザイン実施予算を優先計上しました。

保健・医療・福祉における拠点大学を目指し、グランドデザイン(長期経営計画)を立案しました。10年後の大学の姿を描き、目標を数値化して設定しています。その遂行にかかる予算として、初年度はおよそ3500万円を計上しています。

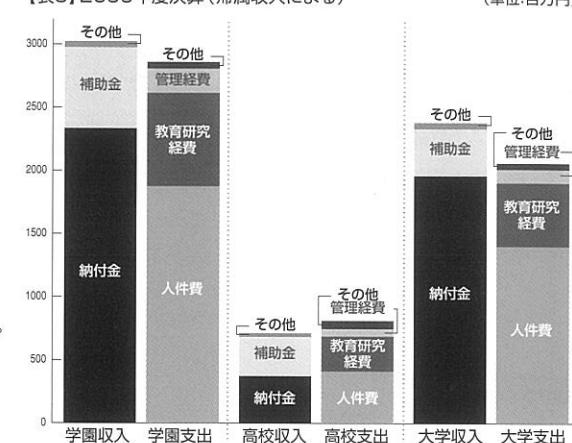
【表2】学園の資産・負債の状況

資産合計	運用		負債合計 4,507 内 (借入金 2,718)	(単位:百万円)
	内	自己資金 7,029		
資産合計 11,536	(現金預金 2,063) (土地 2,293) (建物 5,513)			

※借入金償還可能年数

借入金 2,718百万円  
学校運営にかかるキャッシュフロー 489百万円 =5.56年

【表3】2006年度決算(帰属収入による)



【表4】事業別集計(目的別分類)

教育研究経費+管理経費	2006年度決算		2007年度予算	
	大 学	高等學校	大 学	高等學校
研究費	57,386	0	82,166	0
教育研究援助費	62,033	20,890	98,932	12,308
情報処理教育研究費	18,502	12,572	21,346	14,184
学術情報資料充実費	18,847	631	22,659	847
キリスト教教育	804	132	793	285
国際交流関係費	3,776	2,837	4,886	2,516
教育研究事務費	14,860	3,979	14,038	3,853
小 計	176,208	41,041	244,820	33,993
奨学援助費	1,553	50,161	1,000	53,058
学生生活援助費	2,323	334	3,319	813
就職相談費	3,785	0	5,882	0
学生健康管理費	2,603	431	2,642	643
学生福利厚生設備	3,798	2,887	2,645	120
学生事務費	811	0	415	69
小 計	14,873	53,813	15,903	54,703
入学試験費用	3,477	836	4,307	940
学生生徒募集広報費	52,654	7,718	63,955	7,910
事務管理費	1,554	0	1,568	0
小 計	57,685	8,554	69,830	8,850
修繕整備充実費	6,969	2,370	12,272	4,554
施設設備維持管理費	32,796	12,524	38,206	13,740
光熱水費	31,899	19,081	30,191	19,494
通信費	2,092	646	2,268	709
小 計	73,756	34,621	82,937	38,497
経営事務費	57,680	28,315	48,014	32,585
自己点検評価・満足度調査費	0	0	180	0
教職員健康管理費	1,086	331	1,893	452
小 計	58,766	28,646	50,087	33,037
減価償却費	235,770	109,125	183,659	112,273
合 計	617,058	275,800	647,236	281,353

なお、2006年度決算、2007年度予算ともに詳しくはホームページをご覧ください。 (<http://www.seirei.ac.jp/gakuen/>)

2006年度卒業年次生対象満足度調査結果について

## ●満足度調査実施の概要

学園では、1994年度から大学・高等学校の卒業学年の全学生・生徒を対象に満足度調査を実施しています。また、大学では、2004年度、高等学校では、2006年度から在学生に対しても実施しております。

この調査は、学生・生徒の考え方を把握し、学校経営や学校運営に積極的に反映させていくことを目的としています。この調査は学校法人が直接実施することにより、学生・生徒が自由に回答できることが特徴で、率直な意見が出されています。調査方法は、90～100問(在学生対象は48～99問)の設問をマークシートにより回答し、その他自由記述による設問も設けています。マークシートによる回答は五段階評価で、「①大変満足(とてもそう思う・その通り・よくある)」「②やや満足(ややそう思う・ある)」「③どちらでもない」「④あまり満足していない(あまりそう思わない・思わない・ない)」「⑤全く満足していない(ほとんどそう思わない・全然ない)」となっています。

## ●調査結果の概要

大学では、看護学部・社会福祉学部の4年生を対象に、「①教育目的・目標について」、「②進路（就職・進学）について」、「③授業全般について」、「④教員について」、「⑤職員について」、「⑥施設・設備について」、「⑦学生生活

について」、「⑧卒業を前に」の8項目について実施しました。

高等学校では、3年生の生徒を対象に、「①教育目的・目標について」、「②進路(就職・進学)について」、「③授業全般について」、「④先生について」、「⑤職員について」、「⑥施設・設備について」、「⑦行事について」、「⑧部活動について」、「⑨学校生活について」、「⑩保健室について」、「⑪卒業を前に」の11項目について実施しました。

### ●学校経営・学校運営への反映

大学では、施設・設備面において、昨年の9月より売店を設置し、多くの学生の皆さんに利用していただいております。また、学生食堂の混雑を緩和するため、今年4月から昼休みの開始時間を学部毎に設定しました。

「満足度」は主観的なものですから、個々により満足しているかどうかは違いがありますが、学園では、学生・生徒が個々に感じる満足・不満足の率直な意見を大切にしたいと考えています。

結果については、教職員ひとりひとりが真撃に受け止め、生徒の満足度を高められるよう改善に努めていくとともに、今後この調査結果を理事会や教職員が各自の立場で分析し、その重要度や緊急性を判断して、教育内容の充実、施設設備の充実等、改善を図っていきたいと考えています。

聖隸クリストファー大学

### 【満足度の高い項目】

◆看護学部

- 1 希望する進路先に就職、又は進学することができた。
- 2 この大学で学べたことは有意義だった。
- 3 看護専門領域の授業は専門的な知識を身につけるために役立った。
- 4 就職センター職員は個別に親身になって就職相談にのってくれた。
- 5 学生サービスセンター職員の対応は適切だった。

#### 【満足度の低い項目】

- ◆看護学部
- 1 外国語科目により語学力が向上した。
- 2 学生食堂の営業時間は適当だった。
- 3 学生ロッカーハウスは清潔感があった。
- 4 教室等の空調は快適だった。
- 5 築二会館は利用しやすかった。

◆社会福祉学部

- 1 学生サービスセンター職員の対応は適切だった。
- 2 専門科目の授業は専門的な知識を身につけるために役立った。
- 3 満足のいく実習指導を受けることができた。
- 4 希望する進路先に就職、又は進学することができた。
- 5 少人数のゼミ形式の授業における討論は有益だった。

◆社会福祉学部

1	学生ロッカー室は清潔感があった。
2	学生食堂の営業時間は適当だった。
3	加入したいと思うクラブやサークルがあった。
4	通学に便利だった。
5	昼食時間に食堂を利用することができた。

聖隸クリストファー高等学校

#### 【満足度の高い項目】

- ◆3年生全体
- 1 自分の希望する学校を推薦で受験することができた(できそう)。※特進除く
- 2 希望する学校に進学できた(できそう)。
- 3 良い友達、または親しい友達ができ、楽しく過ごすことができた。
- 4 研修旅行は楽しく、良い思い出となった。
- 5 自分の好きな教科、科目があった。

#### 【満足度の低い項目】

- ◆3年生全体
- 1 日々の課題、週末課題等で家庭学習の習慣が身についた。
- 2 授業評価による生徒の意見が授業改善に反映されていた。
- 3 保健室は利用しやすく、安心して高校生活を送ることができた。
- 4 「自分のようにあなたの隣人を愛する」ということが学校内で実現されていると感じられた。

特別准常コ-783設問、准常コ-7100設問、総合・情報コ-799設問のうち、上・下位5設問を抽出